



# むさしだい

学校だより3月号  
令和6年2月29日  
中野区立武蔵台小学校  
校長 若菜 康史

6年1組  
私たちの夢




## わくわくマラソン

1月末より、武蔵台小学校のみんなで、中休みにマラソンに取り組みました。めあては、「同じペースで走ること」「前回よりたくさん走ること」です。回数を重ねるごとに、たくさん走れるようになった子が多かったです。どの子どもとても真剣に走っており、走り終わった後の子どもたちの顔は、とてもすてきでした。

## アンサンブルコンテスト

### 都大会結果

昨年末の予選を通過した吹奏楽団の代表チーム8名が、2月4日(日)に行われた都大会に出場しました。年明けから更に練習を重ね、演奏に磨きをかけ、銀賞をいただきました。来年度も頑張ります。

「H3 ロケット」に思う

## 校長 若菜 康史

先日の2月17日土曜日に鹿児島県の種子島（たねがしま）宇宙センターから、日本の新型ロケット「H3 ロケット」が打ち上げられました。無事に宇宙に到達し、人工衛星を宇宙空間に送り出すことができました。1号機の打ち上げが残念ながら失敗だったので、1年ぶりの成功は様々なところに喜びをもたらしたということでした。

日本の宇宙への挑戦は、これからの日本の未来を考えたときに、とても重要なことではないかと思いながらニュースを見ていました。私個人としては「小惑星探査機 はやぶさ」や「月探査機 SLIM(スリム)」の成功は宇宙の秘密を探る科学の挑戦だとしたら、今回の「H3 ロケット」宇宙で商売をすることへの挑戦です。日本は小さな島国です。でも、多くの人たちが日本の国の中だけではなく世界を相手にして取り組んでいることが、本当に沢山あります。宇宙に向けての多くの研究は、これらの取組の先頭を走って進んでいることではないかと思うのです。科学の分野では、「はやぶさ」のように、宇宙に浮かぶ小さな星から、人が行かなくてもその星の砂を持ち帰ることができました。また、月に着陸した「SLIM(スリム)」も小さな探査機を使って384400km（地球約10周分の距離）も離れた月に人が行かずに月面の様子を知ることができました。宇宙の成り立ちを調べるために役立つ技術です。

また、宇宙で行われている技術でみなさんの生活になくはならないものが本当に沢山あります。みなさんが日頃から気にしている天気は気象衛星の情報なしでは予測は成り立ちません。またインターネットや携帯電話などの通信技術も人工衛星を介して行われています。またGPSといって、みなさんが今どこにいるか、という人の動きや、自動車などの交通の流れは、人工衛星から見ている情報を元により正確なことが分かるようになりました。

今や働く人工衛星を打ち上げるロケットの

開発は本当に重要なことです。ちなみに2022年は世界で2368機の人工衛星が、宇宙に打ち上げられたそうです。また、人工衛星を打ち上げられる技術をもっている国は限られてきます。

これからの日本は、こういうロケットを飛ばす技術力、造るような技術力を成長させていくことも大切ですし、宇宙のことをもっと知る科学力、また、外国と協力したり、信頼されたりする人と人のつながりを創る力も大切になっていくのだらうと思います。今の子どもたちにはそういう担い手になってほしいと感じます。

子どもたちはこの春、進級したり、卒業したりしていきます。それぞれの子もたちが、自分の学んだこと、経験したこと、関わったことを無駄だと思わず、次の大きなことにつなげてほしいと思います。

今年度も本校の教育活動につきまして地域・保護者の方々に御理解、御協力をいただき、本当にありがとうございました。今年度は本校の取組を研究発表として公開することもでき教育活動の充実が図れました。ここに、心より感謝申し上げます。